

を砕き、朽ちかけた標本を補修し、膨大なりストを作り、展示室を作った。ライデン大学内の「アルビヌスの部屋」で彼の肖像画に直面すると、先代の遺産を観点を変えて再生させるのも、朽ちるにまかせるのも現代の我々次第である、と声がしたようであった。

29

山内 一 信

名古屋大学医学部医史料の保管の状況と、保管に対する私共の考えを述べさせていただきます。当部の医学史料は

名古屋大学図書館医学部分館内にある医学部史料室に保管されています。この史料室は昭和六十年に、医学部の卒業生（昭和二十九年卒業を中心）の働きかけにより、それまで史料の内容や位置付けが曖昧のまま取藏されていた医学史料をきちんとした体制で保管しようということで、分館内四階に百平米の敷地をもらい作られました。所藏品には書籍、報告書、掛軸、医療器具、歴史的絵画などがあり、展示はこれらの原物とパネル等とを組み合わせて、一、年史、論文業績集類書架、二、医学部関連史料展示コーナー、三、医療具等陳列ケース、四、古医書、個人文庫の陳列棚の四

つのコーナーから構成されています。二のコーナーでは尾張や名古屋大学医学部の医学史が一目でわかるようになっていきます。主な所藏品には「原生要論」（ヨングハンスの医学校最初の出版物）、「医事新報」（明治初期医学雑誌類）、「後藤新平のローレツ送別の辞」、「老烈氏愛知病院手術図」、「北越従軍銃創図録」（英国医官W・ウイリス北越戦争軍陣治療記録）、「本学で開発された胃鏡類」など医学史上、重要なものが少なからず保管されています。また時々同窓生の方や篤志家の方より寄贈品や寄託品もあります。一年中、空調装置により湿度五十パーセント、温度は夏期二十六度前後、冬期十八度前後に調節されています。

ここで医学資料の保管で問題となりますのは、専任の管理者が居ないために十分な管理ができません。そのため最近はドアに鍵をかけ、入管希望者が入室されたときに分館受付で鍵をもらって入室します。また保管管理予算もなく、史料の劣化に対する補修も充分できません。さらに史料そのもののきちんとした把握が十分ありませんのでデータベースもできていません。

医学史料をきちんと保管するには大学全体としての博物館に相当する施設を建設し、ひとつの分室として、決められた方式で管理することが必要のように思います。ボラン

テイアの活動も評価されますが、少なくとも一人は専門的知識をもった学芸員の方の配置が必要でありましょう。

さらに収蔵品のデータベース化も必要であります。古いものは時とともに変質し、損傷の可能性もあります。貴重な資料は画像データベース化も必要です。これらはインターネットなどのネットワークを通して興味ある方々に供覧されるとよいと思います。また時々テーマを決めて資料展示を行ない、学内外に現物を通して医学に対するきちんとした歴史観を培ってもらうのも大切であると思います。このように人的、物理的な協力を得るためには、史料の歴史的意義をことあるごとに訴えて、キャンパス内の医学的資産についての理解を求めることも大切と考えます。

30

吉元 昭 治

以下簡条に愚考を申しておきます。

一、膨大のものになると思いますが、書籍、資料、収蔵品などを何処に、誰れか、どのように収集・保管するかが問題となりましょう。日本・中国・西欧、古代・中世・近

世・現在、あるいはジャンル別に責任者を決めて音頭をとっていただきたいと存じます。資金はどうするか大変な大仕事です。

二、集めても利用されなくてはなりません。コンピュータ処理、インターネットなどの手段も重要となります。

三、集められたものは、いわゆる「書齋科学」に陥り易い面もあります。広くもつと視野を拡げて、次のようにも提案します。

① 単に医史料だけでなく、学際的な交流、例えば科学史、文学、芸術、宗教などとの交流、単に医史だけで独立していると考えないで、他の分野から逆に医史学を見るときという態度が重要です。

② フィールドに出るの医史料の採取、古代の事項に関するものでは考古学にも係りましょう。書齋に引きこもつていないでフィールドに出てみましょう。そして生きた医史学を構築して、祖先が私達に残してくれたメッセージをキヤッチしていくことも大事な作業と存じます。例えば、医学史に関与する現地に立つて、そのの空気を吸ってみることでです。その山川草木は、たとえ都市化、現代化していても、大まかな姿は変わらないはずですし、祖先も同じ視野で眺めていたことは間違いありません。